

# 第3回 卒業設計コンクール展

最優秀賞

芝浦工業大学システム工学部環境システム学科

渡邊 展名

共棲文化空間

## 設計主旨

■現在埼玉県民は多くの情報、文化などを東京都市に求めすぎたため、商いを営む当事者以外は自分達の街の賑わいや変化について関心が強いという意識が現状である。埼玉県の主用都市は本来都市の持つ特有の場所性、地域性が存在せず、均質で断片的な要素が薄く、かつ単につまただけの状態を呈している。その結果個性のない建物群、無駄なスペース、活気のない商店街が形成され人々の行動も自然と制限されている。

■対象敷地はJR大宮駅周辺の賑やかな商業空間と氷川神社につながる閑静な住宅街との間に位置し表通り・裏通り・氷川参道の五本の異なる道に面した南北に長い数ブロックから形成された街区である。動的な駅前から一步外れ静的な居住空間が存在し象徴的な神社への動線上にあるため行き交う人々の目的は多様であり、様々な「カオ」を持つ場所である。しかし通りに面した建物だけが発展、賑わいを待つ一方でその中は空洞化し、また、オフィスビル等の空空間や駐車場等で構成され目立っている。

■無駄な空間に対して現状の街区の中で既存の建物の建築と共棲する「文化空間」を提案する。中心の空洞化、空空間、駐車場等の有効活用を図り、文化的機能を持つ新しい空間を創出することで周辺都市と異なる特色を持たせ、生きた街区の再生を目的とする。

## 《地形を形成》

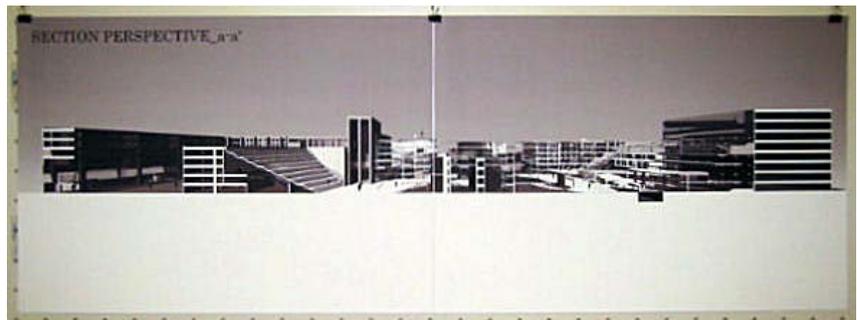
道路行為にのみ林立する建物によって街区にできたアクティビティのない谷間を自由に出入りできるもう一つの都市空間に変換する為の地形（大階段、谷をつくる為の建築、段階的な床など）を挿入する。様々な都市装置を配置することで地形と合わせて多様な揚・質の空間を生み出しそれぞれの人の楽しみ方、印象を提供する。これらは情報棟、イベントスペース、スポーツクラブ、駐車場などの機能をもつ。

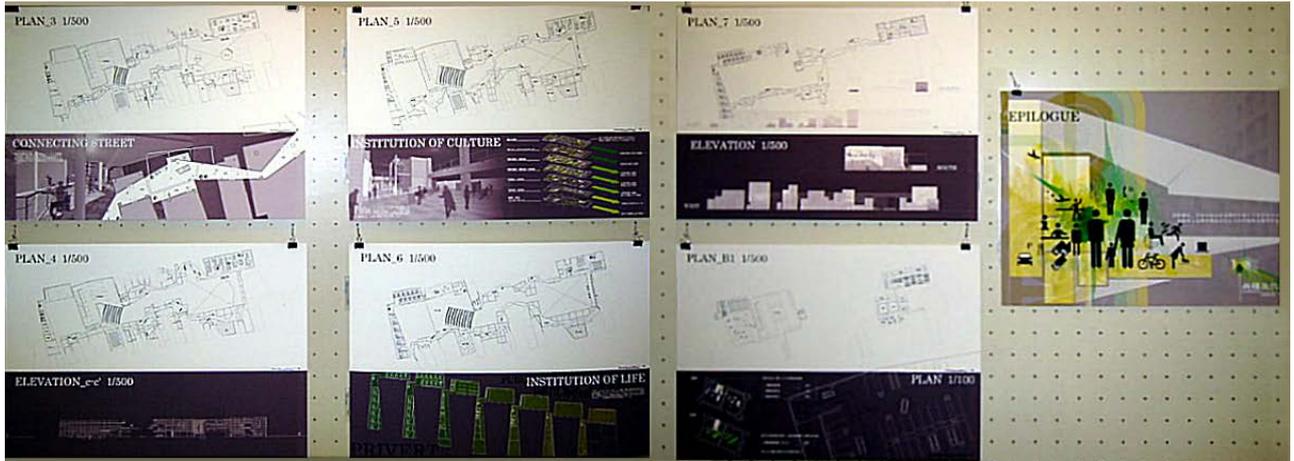
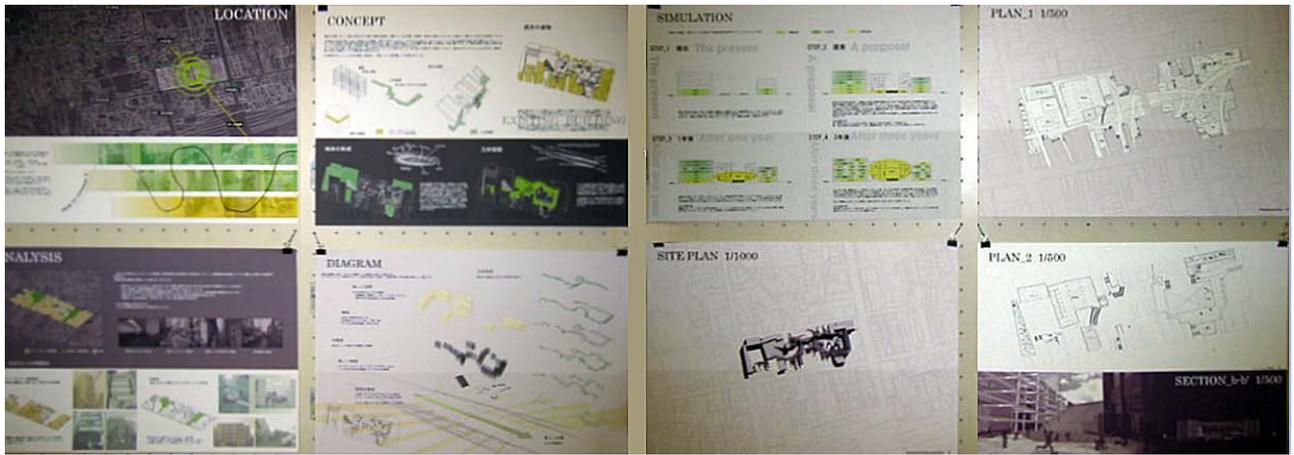
## 《立体街路》

建物上階の空空間とは人・物がたどり着きにくいから起こる現象である。この空間へスムーズに人・物が運ばれる為の立体的な動線、立体街路を計画する。これにより無駄になっている既存の建物の空空間を利用したカルテュースクール等を開設することを考える。

街路は状況によって空間の質が変化する可能性のある、仮説性に強い空間となる。ランダムな街路は淀む空間、建物のソリッドな面、構造の方向性などと合合わせることで路地的な空間をイメージする。

■本計画は現住日本のあらゆる都市において生まれつつある過剰空間を利用した、都市再生の一つの可能性を模索したものである。



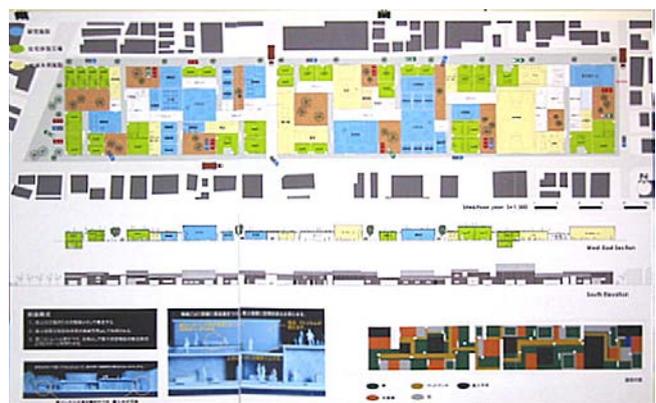
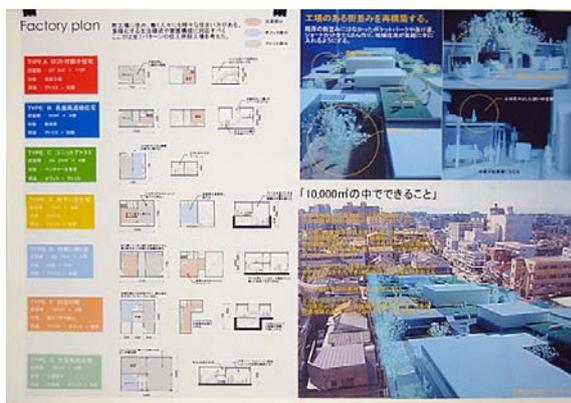
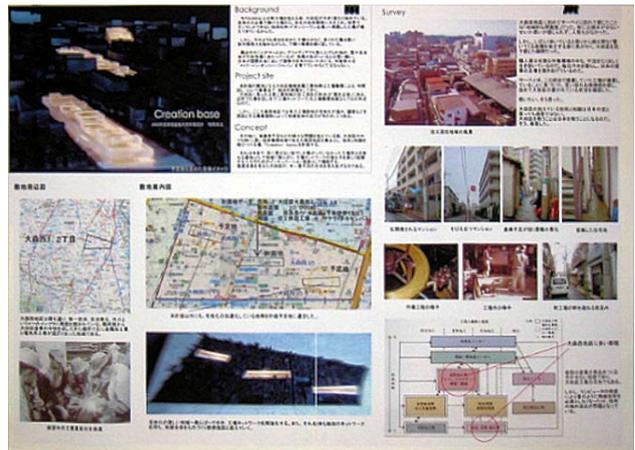


優 秀 賞

東京電機大学工学部建築学科  
相馬 俊之

Creation Base

大田区大森西区は、日本国内産業の根幹とも言える金型技術が発達していて、携帯電話の小型化など多くの分野に貢献しています。そこで、この地域の工場ネットワークを活かしたものづくりを発展させるために、産業連携の中核となるような大学サテライトキャンパスと住居併設工場群の地域複合施設を計画しました。



優 秀 賞

共栄学園短期大学・住居学科

長岡 美紗

## Inter-medium Deign School

私がデザインのさまざまな分野で活躍している作家の集まる学校を作ろうと思ったのは、もっと自由で実践的なデザインを身に付けられる学校があったらいいなと思ったからだ。この学校には、今までのデザイン系の学校と異なる箇所がいくつかある。少人数であったり、時間割がなかったり、1年間だったりする。作家と学生が学生と学生がもっと近い距離で、そして、他のアトリエともかかわり合いながら、刺激しあいながら学ぶ。学生にとっても先生としてくる作家にとっても刺激的な学校だ。学生も作家も本当にやる気のある人が集まって自由に活動できる場所があって時間があれば、すごく面白い事ができると思う。そして社会の最先端のデザインを生み出す場所になっていけるはずだ。

